

秋季史跡見学会のおもな見どころ

ゴシック体は『日本史用語集』（山川出版社）収録の用語

午前

○小塚原回向院

明暦3（1657）年の**明暦の大火**や伝馬町などの牢屋で獄死・刑死した遺体を、両国の回向院では埋葬しきれず、住職が幕府に願い出て、この地を拝領し小塚原回向院が建てられた。境内の入口には「覬臆記念碑」がある。これは、明和8（1771）年に江戸三大刑場のひとつである小塚原刑場で行われた腑分けに立ち会った**杉田玄白**と**前野良沢**が『ターヘル＝アナトミア』を訳した「**解体新書**」を完成させたことを記念したものである。また、境内には**安政の大獄**で処刑された**橋本左内**の墓をはじめとして、**吉田松陰**や**頼三樹三郎**、**井伊直弼**を襲撃した水戸藩士の墓を見ることができる。ほかに、**二・二六事件**で暗躍した磯部浅一の墓などもあり、歴史の一端を垣間見ることができる。

○円通寺

延暦10（791）年に建立されたと伝えられる古刹。参道左手には、上野の**寛永寺**にあった黒門がある。慶応4（1868）年の**上野戦争**で旧幕臣の**彰義隊**と新政府軍とが戦い、この黒門の前でも激しい攻防が繰り広げられた。門に残る無数の弾痕が、往時の激戦を今に伝えている。

○千住製絨所跡

この地に日本初の毛織物の**官営模範工場**である、**千住製絨所**が創設された。周辺には、初代所長の井上省三の胸像と、井上の同郷で交遊があり、外務大臣として**条約改正**に尽力した**青木周蔵**の撰文が建っている。昭和37（1962）年には、千住製絨所跡地に「東京スタジアム」が建設され、プロ野球ロッテオリオンズの本拠地となった。広大な敷地跡には、千住製絨所の煉瓦塀の一部が今もなお残っている。

○荒川ふるさと文化館

入口の前に、回向院にある**橋本左内**の墓を保護するために建てられたお堂がある。堂内の橋本左内座像は、福井県から寄贈された像を原型として、菓子満氏が鋳造したものである。館内では奥の細道の展示をはじめ、荒川区の歴史をわかりやすく展示している。当日は学芸員の解説つきの見学を行う予定である。

○千住大橋周辺

文禄3（1594）年に**徳川家康**の命によって、初代**関東郡代**の伊奈備前守忠次が架橋を取り仕切った。工事は困難を伴い、奉行の忠次は**熊野権現**に祈願したともいわれている。その後、水害などで流出するなどして、何度も架け替えられたが、**関東大震災**後の復興事業の一環として、昭和2（1927）年に現在の鉄橋が架橋された。タイドアーチ式としては日本最古のものである。橋のたもとに、**松尾芭蕉**『**奥の細道**』矢立ての碑が置かれている。また、橋を渡ってすぐの千住市場入口にも芭蕉像が置かれている。これはそれぞれの町内で作られたもので、この地域でいかに芭蕉が重要な存在であるか分かるものとなっている。

午後

○千住宿貫目改所跡

千住宿は一般的な**宿場**とは異なり、江戸四宿と**日光道中**の初宿としての性格をもつ。初宿であるため、荷物の重量が公定通りか検査するための貫目改所が、当時は置かれていた。ほかにも日光街道沿いには、さまざまな跡を示す石碑がある。

○「自然真営道」発見の地

江戸時代中期の八戸の医師で、社会思想家である**安藤昌益**が書き残した『**自然真営道**』発見の地がある。明治期の哲学者である狩野亨吉が「わが日本が世界に誇りうる唯一の独創的な社会思想家」と絶賛した、農本主義の平等社会を主張した安藤昌益に関してこの地から読み解いていく。

○河合栄治郎生家跡

この地で酒屋徳島屋の次男として誕生した**河合栄治郎**は、東京帝国大学経済学部の教授を勤めた。自由主義経済学者であり、著書『**ファシズム批判**』等で当局から弾圧を受けた。当日は、彼の生い立ちや思想を千住地域と関連させて見ていく。

○勝専寺（赤門寺）

徳川将軍家ゆかりの寺である。2代将軍**徳川秀忠**が鷹狩をした際に休息所となり、3代将軍**徳川家光**の時代には、境内にお茶屋が造営され、たびたび立ち寄っている。都内でも珍しい煉瓦造りの寺である。朱塗りの山門にちなんで地元では赤門寺と呼ばれている。ここには、朝鮮独立運動の士である**金玉均**撰文の碑が残されている。

○森鷗外旧居跡

『**舞姫**』など近代日本文学を代表とする有名な森林太郎（**森鷗外**）は、現在の島根県津和野町に生まれた。父が東京の千住へ移り住み、橘井堂医院を開業したことで、森家はこの地に移り住んだ。当時、東京大学医学部に進学していた林太郎も転居し、ドイツ留学後は千住の家に戻り文筆活動を始めた。

○清亮寺

「槍かけの松」と呼ばれた古樹があったことで知られる寺院。水戸街道を往来する大名行列がここで小休止をした際に、槍を掛けた松があったことによる。また、この近くに小菅刑務所が置かれたことから、清亮寺にはかつて囚人墓地があった。明治期初期には亡くなった死刑囚を医学解剖して埋葬したことから、解剖人の墓がある。ほかにも明治の歴史学者で、日本史の近世概念の定義をし、著書『**経済史の研究**』で有名な内田銀蔵の墓がある。**夏目漱石**『**吾輩は猫である**』の挿絵や、新宿中村屋のロゴで有名な中村不折の扁額が門に掲げられている。